

テーマ：あなたは“誰に”信頼を置いて歩んでいますか？

○信頼すべき主の姿：四つの特徴

1. 主は“_____”を与えてくださるお方(1)

※出エジプト 3:14

「わたしは、『わたしはある』という者である。」

※ヨハネ 10:11-15

「わたしは、**良い牧者**です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。それは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。**わたしは良い牧者**です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨てます。」

2. 主は“_____”を与えてくださるお方(2-3)

▶「緑の牧場に伏させ」(2a)

「羊は、奇妙なことだと思われるだろうが、生まれついた性質上、次のような四つの条件が満たされない限り、横になって伏すようにさせることはほとんど不可能である。まず、彼らは臆病なため、恐怖心が完全に取り除かれることがなければ、横になろうとしない。次に、彼らは群れの中で「社会的行動」を取るため、仲間の誰とも摩擦がない状態でないと、横にならない。また、はえや寄生虫に苦しめられているなら、羊は横にならない。こういう害虫から免れている時にのみ、彼らは安らぐことができる。最後に、羊は食物を求める必要があることを感じている限り、横にならない。飢えていない状態でなければならない。」(フィリップ・ケラー)

▶「いこいの水のほとりに伴う」(2b)

▶「たましいを生き返らせる」(3a)

※詩篇 22:1

「わが神、わが神、どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか…」

※マタイ 26:74(cf. 26:72-75)

「すると彼は、「そんな人は知らない」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。」

▶「義の道に導かれる」(3b)

※1 ペテロ 2:24-25

「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。」

▷「御名のために」

3. 主は“_____”を与えてくださるお方(4)

※ヨハネ 16:33

「…あなたがたは、世にあっては患難があります。」

「『あなたが私とともにおられますから。』これこそクリスチャンの喜びそのものです。航海中に暴風雨に会っても、赤ん坊は、同乗している大人の乗客のように驚いたりはしないものです。母親の胸に抱かれてすやすやと眠っています。赤ん坊は、母親がともにいるだけで十分なのです。信仰者も、キリストがともにおられることを知っているだけで十分なはずです。『あなたは私とともにいてくださいます。あなたを持つことは、私の望むものすべてを持つことなのです。私は全き慰めと絶対的な安心を得ています。あなたが私とともにおられますから。』(チャールズ・スポルジョン)

4. 主は“_____”を与えてくださるお方(5)

○まとめ(6)

※ヨハネ 14:2-3

「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」